

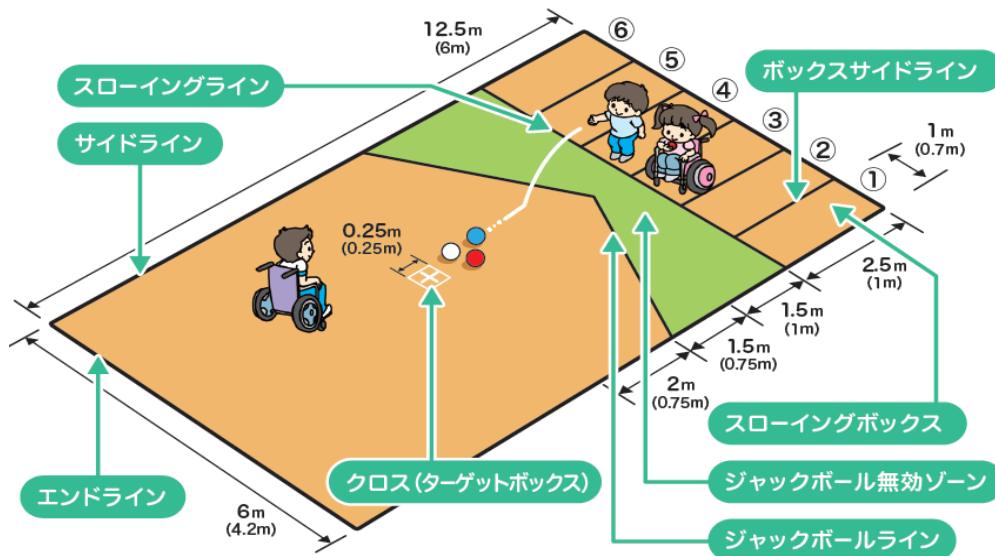
ボッチャ

1 概要

ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに赤・青それぞれ6球ずつのボールを投げて、いかに近づけるかを競うスポーツです。

カーリングのように相手のボールを弾いたりして、自分が優位に立てるように位置取りをしていきますが、ジャックボール（目標球）も弾いて移動させることができます。

2 コート



投球したボールがサイドラインやエンドラインを超えてしまうと、無効になります。競技中に押し出されたジャックボールがサイドラインやエンドラインに触れるか外に出た場合、クロス（ターゲットボックス）の位置にジャックボールが戻されます。

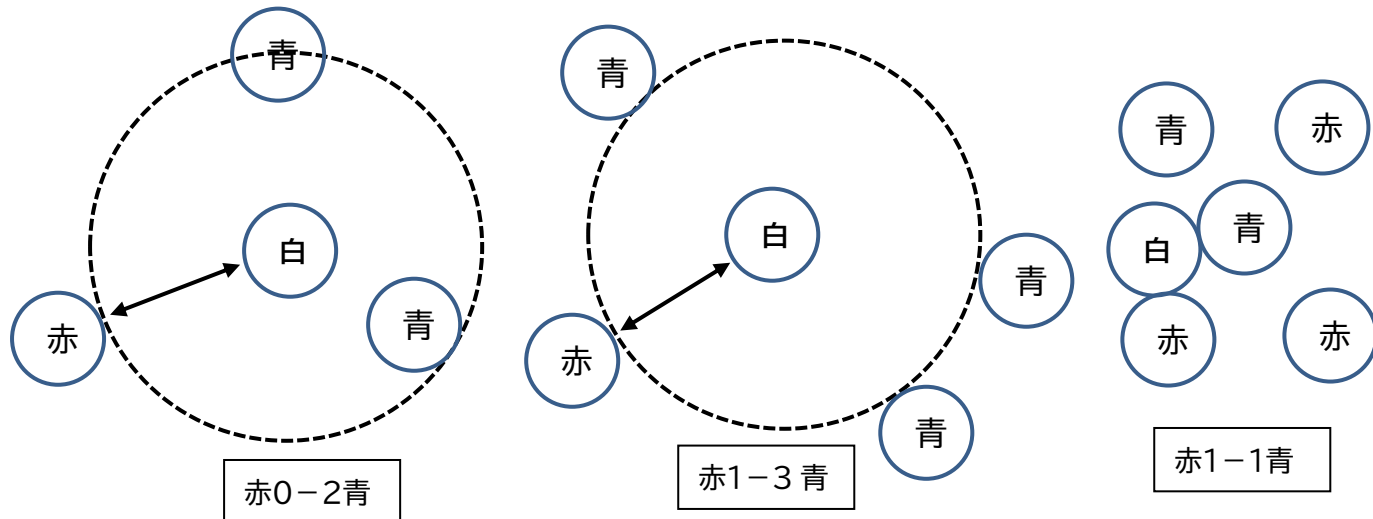
使用するスローイングボックス

個人戦：③と④（赤ボールが③、青ボールが④）

ペア戦：②～⑤（赤ボールが②・④、青ボールが③・⑤）

チーム戦：①～⑥（赤ボールが①・③・⑤、青ボールが②・④・⑥）

3 得点の例

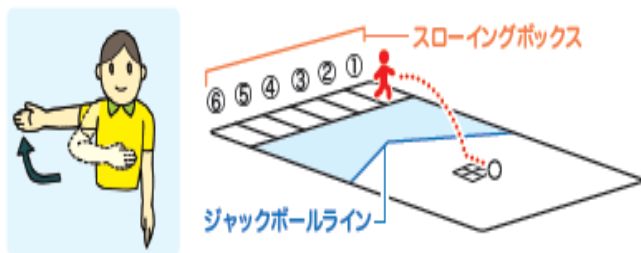


試合の進め方

- 試合は3人以上1組で構成されたチームで行う(エンド・試合ごとのメンバー交代は可)。
- 代表者同士で、じゃんけん(もしくはコインス)で、先攻(赤)・後攻(青)を決める。
- スローイングボックス①③⑤には赤チーム、②④⑥には青チームの選手が入る。
- 持ち球は1人2球。
- 公式試合は6エンドを行い、合計点の高いチームを勝者とするが、状況によりエンド数を変更して行う。

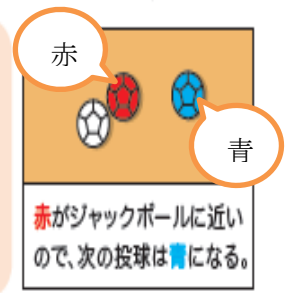


1 審判の「ジャックボールプリーズ!」の合図で、先攻チーム(赤)の①のスローイングボックスの選手が、ジャックボール(白)を、ジャックボールラインより奥のコートに投球する。ジャックボールラインに触れたり、越えなかった場合、又はコートの外へ出てしまった場合は再度同じ選手が投球し直す。

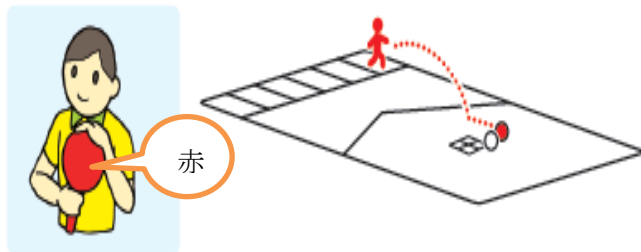


4 これ以降は、審判による判定で、ジャックボールに対し、それぞれのチームの一番近いカラーボールまでの距離を比べ、遠い距離にあるカラーボールのチームが、審判の指示板による合図で、投球する。

☆ジャックボールからの距離が等距離の場合は、最後に投球したチームが次に投球する。その後、等距離が続いた場合は、等距離が崩れるか、どちらかのチームが全てのボールを投げきるまで、両チーム交互に投球する。



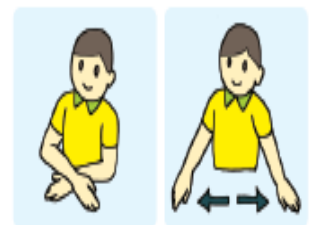
2 次に、審判の指示板による合図で、ジャックボールを投げた選手が続けて最初のカラーボール(赤)を投球する。



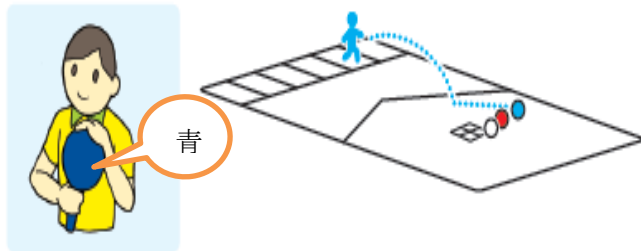
5 両チームのすべてのカラーボールを投げ終わったら、審判は「ボールフィニッシュ!」と宣言。

6 審判が得点をつけ(図 得点の例参照)、指示板により結果を選手に伝える。必要があれば代表者(もしくは選手全員)に確認してもらう。

得点が確定したら、審判は「エンドフィニッシュ!」と合図し、審判はジャックボール(白)を手に取り、1エンドを終了。選手にボールを回収してもらう。



3 次に、審判の指示板による合図で、相手チームの(青)の②・④・⑥いずれかの投球ボックスの選手が、カラーボール(青)を投球する(チーム内の投球順は問わない)。



- 得点の数え方のポイント**
- 1) ジャックボールに近いカラーボールはどのボールか?
→ ジャックボールに近いボールのチームが勝ち!
 - 2) 負けチームのボールで、ジャックボールに一番近いボールはどのボールか?
 - 3) 2)のボールからジャックボールまでの距離内にある、勝ちチームのボールはいくつか?で得点を数える。



公益財団法人身体教育医学研究所 引用